



〈被爆後の広島市の街並〉 撮影/川原信雄 資料/広島市歴史資料館

1945年8月6日、  
集土と化したヒロシマ——。

その時から始まった長きに亘るヒロシマ  
復興の道のりには、音楽と共に歩んだ  
教会の足跡が残っている。

その足跡は今、音の記憶と共に、  
未来へと続く。

被爆の大きな傷跡が残る広島。被爆地からほど近い  
場所に位置する広島流川教会は、被爆直後から復興へ  
の長き道のりを音楽と共に力強く歩み始めた。

被爆翌年——教会は賛音音楽会を開催し、被爆地  
ヒロシマに流れる豊かな楽器の音に多くの市民が耳と  
心を傾けた。また同年のクリスマスには、市内の他教  
会と共に「広島市基督教徒会合」主催で「市民クリス  
マス」を開催。ここでも彼らは市民を音楽の力で勇気  
づけた。

被爆から2年後の秋——シカゴで音楽教師をしている  
リリアン・コンディット氏から広島流川教会に「メサイ  
ア」の楽譜30冊が贈られてきた。彼女は、広島流川  
教会主任教師・谷本清朗の献節・留学先での友人である。  
このことを契機として教会では、当時、師範学校の  
音楽教師であった太田司朗氏を中心として教会員や

師範学校の生徒による男女混声合唱の聖歌隊が組織。  
同年の「第二回 市民クリスマス」のほか、ラジオ番  
組「クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」の  
中では「メサイア」の抜粋演奏が英語歌詞で行われた。  
それは正に、「メサイア(救い主)」の歌声がヒロシマ  
の地に広く鳴り響いた瞬間であった。それと共に、彼  
らが語った言葉、奏でた音楽には、その時、ヒロシマ  
に生きた人々の強い思いが詰まっている。

67年の時を経て、本コンサートでは、この「クリス  
マス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」をラジオ番組進  
行表に基づきできる限り忠実に再現する。そして、  
その時から大切に演奏され続けてきた「メサイア」の  
抜粋演奏も行う。

彼らの言葉に、音楽に、想いに、  
今こそ耳と心を傾けたい——。

## PROGRAM

第1部 クリスマス特別番組  
『クリスマス音楽礼拝』復元演奏

第2部 「メサイア」抜粋演奏

会場：「ヒロシマ・音の記憶」合唱団  
管弦楽：「ヒロシマ・音の記憶」管弦楽団  
総合指揮：松浦 修  
合唱指揮：小玉 好行  
ソリスト：藤松 恵美 (ソプラノ)、井上 美和 (アルト)  
横安 利秀 (テナー)、折河 憲治 (バス)



〈アクセス〉 ①広島駅より徒歩10分  
②広島電局ビル「女学駅前」より徒歩5分

### 「ヒロシマと音楽」委員会について

被爆30周年を機に「ヒロシマ」をテーマとする音楽作品のデータベース化を行うために結成され、  
2006年には音楽作品のリストを掲載した「ヒロシマと音楽」が文芸春秋出版。現在もデータ収集事業  
を中心に活動を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。http://hiroshima.com/